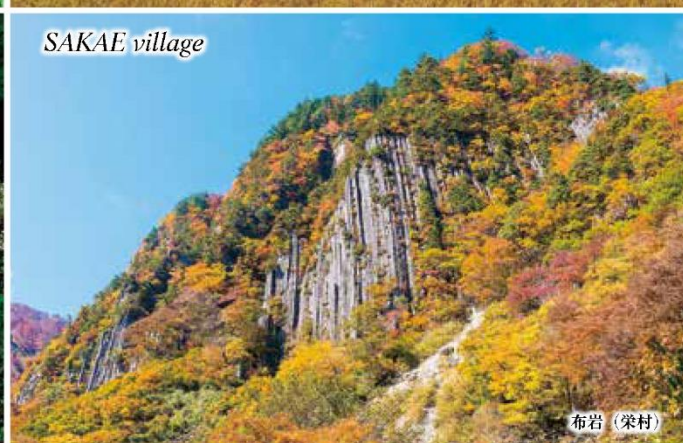
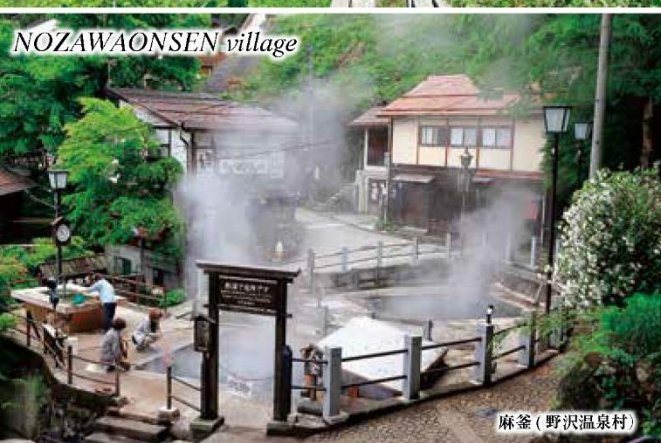


しあわせ信州創造プラン3.0 北信地域計画

豊かな大地と自然に恵まれたふるさと 雪とともに暮らす北信州



北信地域の特性

北信地域は長野県の北の玄関口として最北端に位置し、中野市・飯山市・山ノ内町・木島平村・野沢温泉村・栄村の6市町村で構成されています。自然豊かな故郷の原風景が広がるこの地域は、千曲川が中央を流下し、高社山より北の地域は、冬の最深積雪が2mを超える全国有数の豪雪地帯となっています。

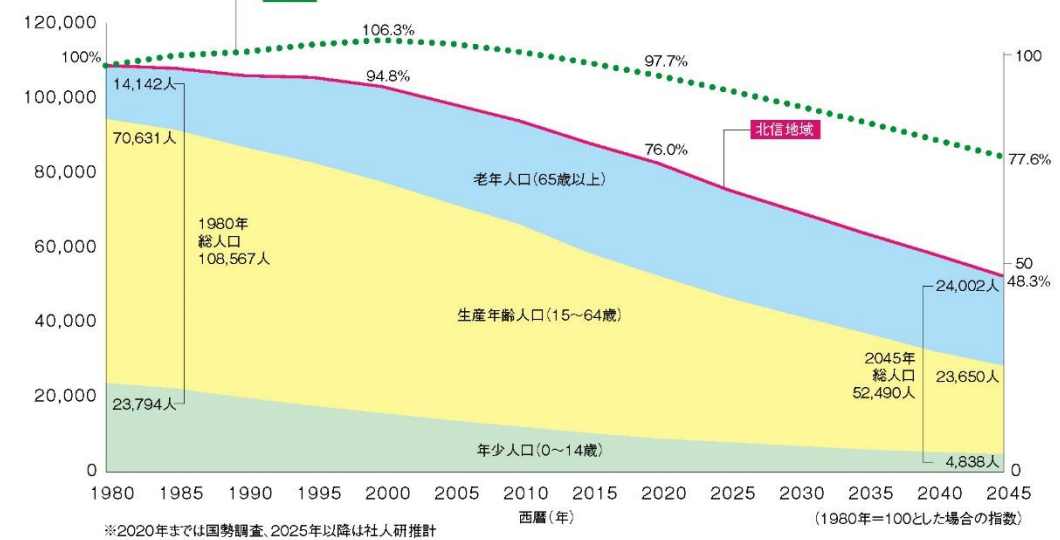
この地域は、県内有数の米、果樹、きのこ等の産地である農業と、志賀高原や斑尾高原などの雄大な自然に加え、湯田中渋温泉郷、野沢温泉、秋山郷など豊富な地域資源を活用した観光業が基幹産業となっています。

北信地域を取り巻く状況

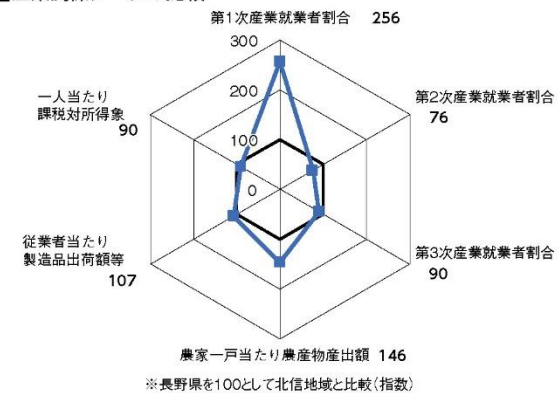
人口は、1980年から減少が続くとともに、年齢構成も年少人口、生産年齢人口が減少し、人口減少率、生産年齢人口減少率は、県平均を大幅に上回ると推計され、2045年には老年人口（65歳以上）が生産年齢人口（15～64歳）を上回るとされています。

産業は、第1次産業就業者割合や農家一戸当たり農産物産出額が県平均を大幅に上回っている一方、第2次・第3次産業就業者割合は県平均を下回っています。

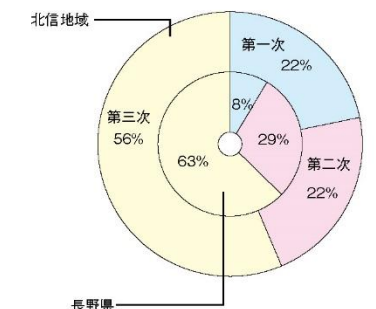
■人口の推移と年齢構成



■産業関係データの比較



■北信地域の産業別就業率



しあわせ信州創造プラン3.0 北信地域計画 概要

めざす姿

豊かな大地と自然に恵まれたふるさと 雪とともに暮らす北信州

北信州で生まれ育った住民だけでなく、この地域に愛着を感じ訪れる人達も、ふるさと北信州を愛し、この地域で過ごし、交流が生まれています。

高い生産技術により、米・果樹・きのこなどの一大産地として発展するとともに、温泉・スノーリゾートや夏のアウトドアなどの観光資源の魅力向上を図り、一年を通じて活気にあふれています。

人々の暮らしに必要な生活基盤が整っており、全国有数の豪雪地帯であっても、高齢者から子どもまで、地域に根差した生活が営まれています。

北信州に生まれ・育ち・集まる人々が、交流し活躍する暮らしの推進

自然に恵まれ、故郷の原風景が広がる唱歌「ふるさと」にも唄われた北信州で、郷土愛にあふれた子どもを育むとともに、移住からつながり人口の創出まで、この地域に愛着を感じる人々が集い、若者が定着するよう支援します。

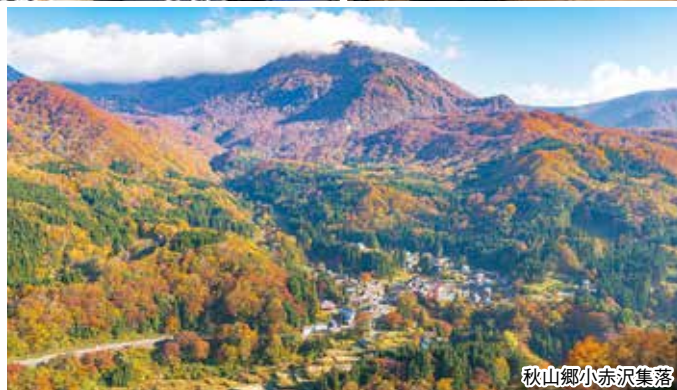
- ①郷土愛を育み、子育て世代が安心して暮らせる地域づくりの推進
- ②若者の定着に向けたキャリア教育や起業、就労の場の確保の推進
- ③北信州の雪と緑を求める移住者、つながり人口創出の推進



県立大OSIによる探究的な学びの支援



地域おこし協力隊定着支援研修会



秋山郷小赤沢集落

北信州の自然を活かした、収益性の高い農業・国際競争力の高い観光業の振興

地域の主要な産業の農業と観光業については、高品質な米、果樹、きのこ等の安定的な生産体制の整備と冬季に留まらず年間を通じて各地から人々が訪れる観光地域づくりを推進します。さらに、次代の担い手の育成を支援し、持続可能な産業としての位置付けを確立します。

- ①豊かな大地と自然に育まれた強みのある農産物の生産・消費拡大の推進
- ②国際競争力の高いスノーリゾートの形成とグリーンシーズンのアクティビティ充実等による通年型観光の推進
- ③信越自然郷を中心とした県域を越えた広域観光の推進
- ④次代の担い手の確保・育成



シャイマスカトの収穫



野沢温泉スキー場



千曲川サイクリング



北信州農業道場

雪国の暮らしを支えるライフライン、地域医療など生活基盤の維持と確保

豪雪や自然災害から財産を守るとともに、高齢化が進む中で保健・医療・介護の連携や公共交通網等の生活基盤を維持し、この地域の人々の暮らしを支援します。さらに、地域の特性を活かしながら、ゼロカーボンを推進します。

- ①ライフライン、生活確保のための雪対策の推進
- ②高齢社会に対応した保健・医療・介護の連携、公共交通基盤の維持
- ③気候変動を踏まえ安全・安心を確保するための県土の強靱化
- ④地域資源を活かしたゼロカーボンの推進



国道117号の除雪作業



食生活改善活動・塩分濃度測定



中条川の治山事業

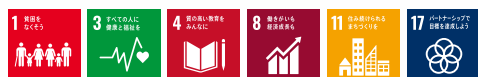


まぐわ川小水力発電所

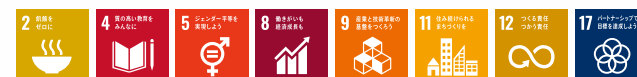
地域重点政策

達成目標

社会増減	△123人(2022年)→0人(2027年)
創業件数	20件(2017~2021年度累計)→現状以上(2023~2027年度累計)
地域おこし協力隊員の定着率	73.5%(2017~2021年度平均)→76.7%以上(2023~2027年度平均)
移住者数	178人(2021年度)→270人(2027年度)



果樹県オリジナル品種等の栽培面積	460ha(2021年度)→620ha(2027年度)
観光地消費額	210億円(2021年度)→368億円(2023~2027年平均)
観光地延利用者数	401万人(2021年)→700万人(2023から2027年平均)
新規就農者数	20人/年(2021年度)→31人/年(2027年度)



除雪作業中の事故件数	21.6件(2017~2021年度平均)→21件以下(2027年度)
除雪作業講習会参加者数	19.5人(2019~2021年度平均)→20人以上(2027年度)
要介護・要支援認定率	17.7%(2021年度)→18.5%(2027年度)
信濃川水系緊急治水対策プロジェクトによる治水対策整備数	2箇所(2022年度)→5箇所(2027年度)



長野県総合5か年計画

しあわせ信州創造プラン3.0

～大変革への挑戦 「ゆたかな社会」を実現するために～

概ね2035年の長野県の将来像を展望し、これを実現するための行動計画です。計画期間は2023年度から2027年度までの5年間です。

基本目標

確かな暮らしを守り、信州からゆたかな社会を創る

確かな暮らしを守る

短期的には新型コロナウイルス感染症、国際情勢の激変による物価高騰、中長期的には気候変動とそれに伴う災害の激甚化・頻発化、急激な人口減少とそれに伴う担い手不足などの様々な危機が、現在、複合的に押し寄せています。

こうした危機を克服することで県民の安定した暮らしを確保し、明日への希望を持って日々の生活を送ることができ、万一の場合には温かな支援を受けることができるという安心がある「確かな暮らし」を守っていきます。

ゆたかな社会を創る

社会の成熟やグローバル化、デジタル化の進展などにより、人々のライフスタイルや価値観が多様化し、物質的な豊かさだけでなく、生活の質やゆとりなど精神的な豊かさを重視する傾向が高まっています。

こうした中、長野県は、経済的な繁栄を享受するとともに、環境と共生し、多様性が尊重され健康で文化的な人間らしい生活が営まれる社会、すなわち一人ひとりの県民がしあわせを実感できる「ゆたかな社会」を目指していきます。

また、ゆたかな社会を築く礎として、暮らしを支える「社会的共通資本」を多様な関係者と共に維持・発展させていきます。

基本目標を実現するための5つの政策の柱

1 持続可能で安定した暮らしを守る

- ・地球環境を保全する
- ・災害に強い県づくりを推進する
- ・社会的なインフラの維持・発展を図る
- ・公共交通の充実をはじめ移動の利便性・快適性を向上する
- ・健康づくり支援と医療・介護サービスの充実を図る
- ・県民生活の安全を確保する

4 誰にでも居場所と出番がある社会をつくる

- ・子どもや若者の幸福追求を最大限支援する
- ・年齢、性別、国籍、障がいの有無や経済状況等が障壁とならない公正な社会をつくる
- ・働き方改革を推進し、就労支援を強化する
- ・女性が自分らしく輝ける環境をつくる
- ・高齢者の活躍を支援する

2 創造的で強靱な産業の発展を支援する

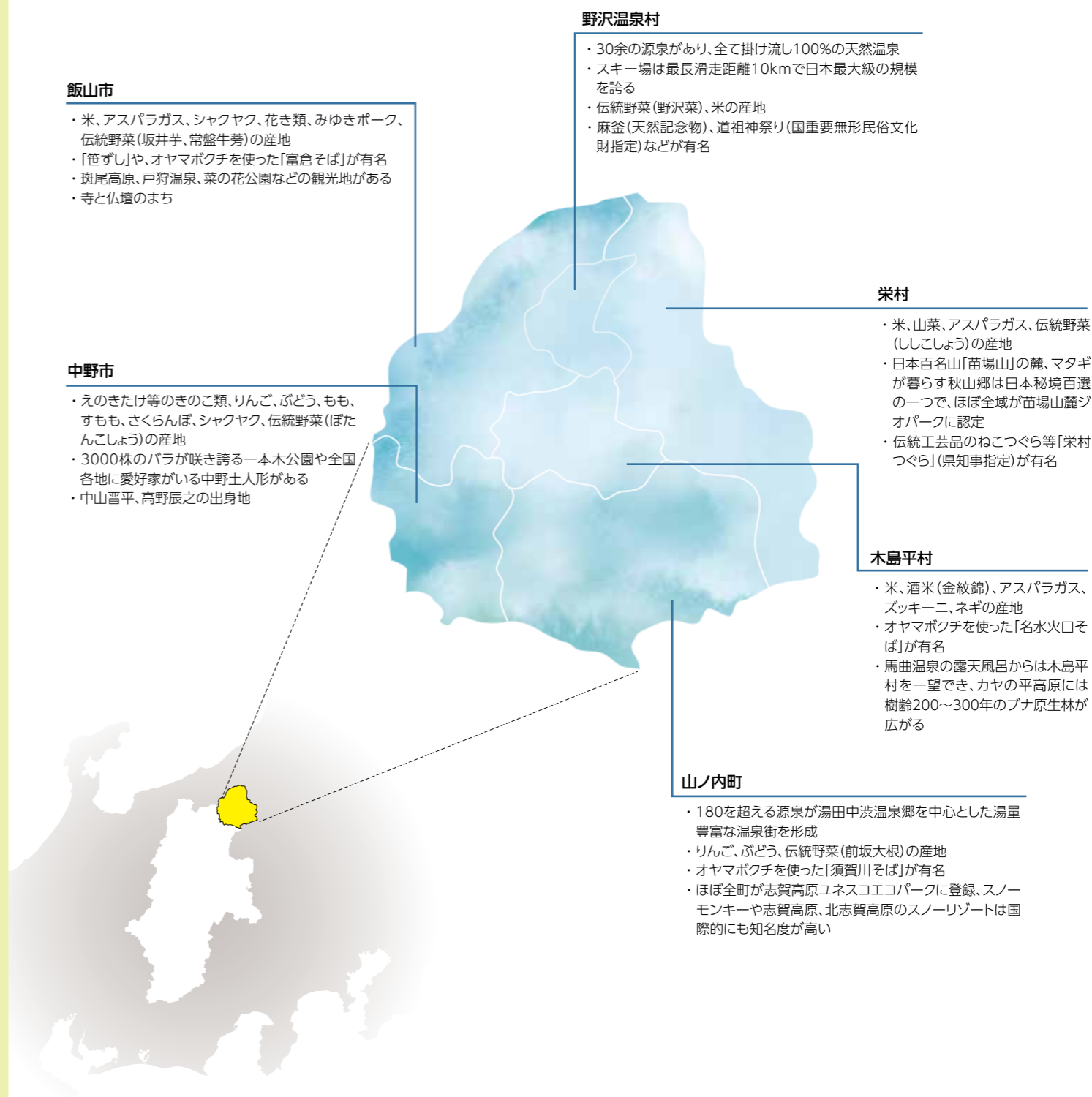
- ・産業の生産性と県民所得の向上を図る
- ・人や社会に配慮した環境再生的で分配的な経済を実現する
- ・地域に根差した産業を活性化させる

5 誰もが主体的に学ぶことができる環境をつくる

- ・一人ひとりが自分にとっての幸せを実現できる学びを推進する
- ・一人の子どもも取り残されない「多様性を包み込む」学びの環境をつくる
- ・高等教育の振興により地域の中核となる人材を育成する
- ・学びの共創による地域づくりを推進し、生涯を通じた多様な学びを創造する

3 快適でゆとりある社会生活を創造する

- ・住む人も訪れる人も快適な空間をつくる
- ・文化、スポーツの振興などゆとりある暮らしを創造する



長野県総合5か年計画 しあわせ信州創造プラン3.0 北信地域計画

長野県北信地域振興局企画振興課
〒383-8515 長野県中野市壁田955
TEL.0269-23-0201 FAX.0269-23-0256

計画の本文はこちらのページに掲載しています

